

◆俳句

「窪川句会」

化粧してもらい羞む踊の子
 莫産干して陽の香たたむや盂蘭盆会
 若き日も遙かとなりて藍浴衣
 人気なき道ひっそりと大暑かな
 それとみて認知と知れず夕涼み
 明易や迷ひしことも定まらず
 竹とんぼ飛ばす孫あり夏の雲

戸田美智子
 野坂 安意
 渡辺 小梅
 市川 令子
 田中 一柿
 棚野 照
 池 和子

◆短歌

「窪川短歌教室」

雨多き四月の庭に咲くが見ゆ
 山吹きの花誇れるごとく
 カナカナの声蕭条とひびきおり
 敗戦の武者果てにし川原
 醤油のみに柚子とジャコを刻み込み
 我等五人の遺児は育てり
 「さあ飛ぶぞ」庭の隅なるタンポポの
 白き綿毛の準備ととのう
 半世紀前時刻かつきり飛び乗った
 通学の駅装い新た

市川 隆子
 市川 浩子
 岡村香代子
 島岡 紀美
 宮崎美紀代